

## 課題管理実施報告書

報告日：2010年2月26日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進:アジア科学技術コミュニティ形成戦略
課題名	「第二回東シナ海の海洋環境とその健全な将来を考える国際ワークショップ」の開催 The second workshop on Marine Environment in the East China Sea and Its Sound Future
実施日	2010年2月7日(日)～2月8日(月)
場所	博多都ホテル；福岡市博多区博多駅東2-1-1
形式	ワークショップ 無
対象者	その他（JSTプロジェクト「協調の海の構築に向けた東シナ海の環境研究」課題参加者）、旧JSTプロジェクト「東シナ海有害赤潮の日中韓国際連携研究」課題関連研究者及び大学院生（台湾、日本）
来場者	人数：36名、（内訳 中国〔含香港〕4人、韓国4人、台湾7人（うち大学院生4人）、ベトナム1人、日本20人）
周知方法	メール発信
実施者	○実施取り纏め者を記載 長崎大学環東シナ海海洋環境資源研究センター・教授・松岡敷充 九州大学応用力学研究所・教授・松野 健
内容	○ 実施内容を具体的に記載 個別の2課題では調査研究の中核として「有害赤潮;Harmful algal bloom」や「栄養塩(nutrient)の挙動と流れ(physical process)」に取り組んできた。しかし、これら2課題は、「栄養塩」が「海域の基礎生産」を支配するとの原則で結ばれている。従って、環境理解を踏まえた東シナ海の保全や修復は個別課題に取り組むだけでは不十分であることに鑑み、関連分野で十分な議論が展開できるようにプログラムを組んだ2日間で以下の8セッションを設定。1. Eutrophication and primary production, 2. Behavior of fresh water discharge from Changjiang, 3. Contribution of the Kuroshio subsurface water and seepage, 4. Circulation and mixing processes on the shelf, 5. Transport through the Taiwan Strait, 6. Interpretation of the circulation and ecosystem in the East China Sea using numerical model, 7. HAB biology, 8 General discussions. それぞれのセッションの後に個々の発表に対する質疑応答とは別に討論の時間を設けた。
効果、問題点、今後の展望と課題	○実施した効果を具体的に記載 東シナ海をはじめとする縁海には環境劣化や資源枯渇等の問題が山積しており、それらの問題解決に向けて、それぞれの研究分野から調査研究、提言がなされてきた。本ワークショップの母体になった2課題もその例に漏れない。しかし、研究の進展に伴い海洋環境保全には海洋の物理過程、化学過程、生物過程を総合的に把握することが重要であることがより明確になってきた。それぞれの分野でのテーマが深化するにつれ、異なった分野間での共通認識や理解が困難になってことを踏まえ、今回のような具体的な課題に基づくセッションを設け、議論する時間をより多く取ることにより、共通理解が深まったと言える。例えば、長江起源水（CDW）の栄養塩、特にリンやケ

イ素が韓国済州島に向かうCDW中で変化することにより基礎生産を担う植物プランクトン群集に与える影響が重要であるとの認識が深まり、それを意識した調査手法を用いる必要性が理解され、異なった分野の研究者間で共有された。

**○ 実施上の問題点を具体的に記載**

今回のワークショップは企画から実施まで準備期間が短かったこともあり、また2件の異なったプロジェクトが合同して実施するとしたこともあり、事前にワークショップ開催の趣旨が一部の参加者に十分伝わっていなかった面があった。

**○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題を具体的に記載**

このような富栄養化と栄養塩挙動に関する分野横断型ワークショップを今後も継続していくことが確認され、具体的には本年9月に韓国GangnungでPEACE, PICES/CREAMS-APとの共同ワークショップを開催することになった。

詳細についてはワークショップの要約を添付する